

にしみたか学園



にしみたか学園

様式6	平成28年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に生きる自覚と態度の育成 ・地域や社会等へ貢献する力の育成 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と小学生、小学生と中学生の交流活動の充実を図る。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、チャレンジ精神を育む。 ・児童生徒代表者会議を充実させ、自治的・実践的な態度を育成する。 ・学園行事や地域行事への参加やボランティア活動を充実させる。 	
<p style="text-align: center;">成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動は、児童・生徒代表者会議の熟議での検討内容を盛り込みながら実施することができた。 ・小学生と中学生の交流では、中学生が企画、実施とリーダーシップをとり行うことができた。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育では、「新しい価値への挑戦を通して、チャレンジ精神・積極性・探究心・創造性を養う」を目標に取り組んだ。 ・ボランティア活動には多くの児童・生徒が積極的に関わっている。 ・様々な形での小・小、小・中の交流活動が根付いている。 ・キャリアアントレプレナーシップ教育について見直しを図りながら、各学年で実施することができた。 ・地域行事カレンダー配布により、広く児童・生徒、保護者、地域に学校や地域の行事を周知することができた。 	<p style="text-align: center;">課題と改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3校で調整し、日時設定を行うこと。 ・交流の目的の徹底 ・保護者、地域住民との一層の協働 ・学校だけでなく地域の中でも小学生・中学生、大人が触れ合う機会を増やしていく。 ・平成30年度の指導要領改訂に向けて、キャリアアントレプレナーシップ教育をどこにどのように位置づけていくのかを明確にししながら準備を進めていく。 ・地域行事カレンダーに「三鷹学びのスタンダード」(家庭版)の内容を盛り込み日常化をさらに図っていく。 ・学年により地域行事参加への温度差があるので学校からも機会をとらえ参加を促す。 	
検証項目	(2) 学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究会の充実 ・コミュニティスクールを基盤とした小・中一貫教育の充実と発展 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園として9分科会を設置し、授業研究を中心に小・中9年間を通じて、「自ら考え、表現し、伝え合う児童・生徒の育成」を目指す。 ・三鷹市や地域人財と協力、連携しながらにしみたか学園10周年記念式典を開催する。 	
<p style="text-align: center;">成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9分科会×3回の研究授業を行い、すべての会に講師を招聘し、指導をいただくことができた。 ・学園創立10周年の年を様々な場面で意識させることができた。 ・記念式典も行うことができた。 ・それぞれの分科会でテーマにそって研究授業を計画し、二小、二中、井口小の順に講師による指導を受けながら、研究授業及び協議会を行い研究を深めた。 ・3校で連携協力しながら、10周年記念式典に向けて準備をし、盛大に10周年を祝うことができた。 	<p style="text-align: center;">課題と改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年計画の2年目である。 ・学習指導要領の周知や道徳の研修も計画したい。 ・平成30年度の指導要領改訂に向けて、小・中一貫カリキュラムの見直しを図りながら、授業研究を中心に学園で研究を進める。 ・次の10年に向けて新たに取り組むもの、整理するもの、継続するものを明確にししながら地域人財を発掘しながら進めていく。 	

検証項目		(3) 小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	にしみたか学園実施方針に基づいた教育活動の推進		
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での授業交流(行事を中心に実施)の活性化を図る。 ・相互乗り入れ授業のねらいや入り方を明確にし、学力の定着を目指す。 ・各校で研究授業及び協議会を行い、学園研究を充実させる。 ・生活指導に関する協議会等を実施し、小・中の円滑な接続を図る。 ・小学校高学年からの一部教科担任制を実施し、学力の向上を目指す。 ・児童・生徒の学習状況の把握と密な情報交換及び円滑な引継を行う。 		
成果		課題と改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上で計画した交流は実施することができた。 ・相互乗り入れについては、教員間でもねらいを正しく意識して実施した。 ・各校での研究授業及び協議会は予定通り実施し、テーマに沿って意見を交流し、講師の指導を受けながら研究を深めた。 ・教育支援に関する研修会を小・中合同で実施し、小・中の円滑な支援について理解を深めた。 ・4年生以上で教科担任制を実施し、教員の指導力を高めることができた。 ・学力調査の結果を分析し授業改善推進プランに反映させた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き小・小、小・中の交流をねらいに沿ったものを実施しながら見直しを図っていく。 ・平成30年度の指導要領改訂に向けて、学園の教育計画を計画的に見直して準備しておく。 ・個別の教育支援計画を中学進学時に丁寧かつ確実に引き継ぐ。 	
検証項目		(4) 児童・生徒の学力・健全育成 ○児童・生徒の学習意欲 ○各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況(習得、活用、探究) ○小学校と中学校の評価の一貫性 ○不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力	・基礎・基本の定着と学習習慣の確立	
	健全	・礼儀や規律を重んじ、人格や生命を尊重して行動	
取組	学力	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の一貫カリキュラムに基づく指導を充実させるとともに見直しを図る。 ・「三鷹学びのスタンダード」「にしみたかスタンダード」に基づく指導 ・地域・家庭に協力を呼びかけ家庭学習の習慣化を図る。 ・補充教室、サマースクールの実施により学力の定着を図る。 ・全教科の授業アンケートを年2回実施し、授業改善の視点を明確にする。 	
	健全	<ul style="list-style-type: none"> ・「にしみたかスタンダード」の実践により授業規律、生活習慣の確立を目指す。 ・道徳教育、人権教育、ボランティア活動の充実を図る。 ・いじめや不登校などへの対応と教育相談体制の充実および問題行動に対する共通実践をする。 ・共通の個別指導計画、個別の教育支援計画を作成し、教育支援を推進する。 	
成果		課題と改善方策	
学力 ・夏季休業中のサマースクールについては、全学年で予定通り実施した。 ・平成28年度全国学力・学習状況調査の結果は、算数のB問題以外は三鷹市の平均を上回った。		学力 ・学力調査の結果等を授業改善推進プランに反映させる。 ・家庭学習の取組についてはあらゆる機会を通して保護者、児童に啓発していく。 ・教員の指導力向上を目指して研修の機会や課題にあった研修を企画していく。	
健全育成 ・あいさつ運動には、昨年度以上の二中学生が参加した。小学生は中学生とのあいさつ運動を楽しみにしている。 ・個別のファイルの作成や更新が年度末に実施できた。		健全育成 ・地域でもあいさつの輪が広がるよう学校の敷地内だけでなく地域でもあいさつ運動に取り組む。 ・6年生については、個別ファイルを中学校に確実に引き継ぐ。	

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営 <input type="radio"/> コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 <input type="radio"/> 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 <input type="radio"/> 学校と保護者、地域住民との連携・交流 <input type="radio"/> その他	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会の活性化 ・保護者、地域住民の学園への参画の推進 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の見直しを図り、ねらいに沿った活動がより迅速にできるようにする。 ・協議、熟議を充実させ、コミュニティ・スクールとしての活動の活性化を目指す。 ・様々な機会をとらえてコミュニティ・スクール委員と教員との連携を強化する。 ・学園の情報発信、コミュニティ・スクール委員会の広報の活発にする。 ・学校行事等における保護者、地域住民の来校人数の増加を目指す。 ・学園、学校評価へ地域・保護者の参画を図る。 ・学園、学校サポート活動を活性化させる。 	
成果		課題と改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・熟議によってこれからのCSの在り方について理解を方向性を定めることができた。 ・学校評価の見直しを図り、評価方法や評価項目を見直すことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会の組織改正を現状に合わせて検討しながら推進していく。 ・学園・学校評価については実施しながら改善を図っていく。
<p>平成28年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ</p>		
(1) から (5) の検証 結果を踏まえて	1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと <ul style="list-style-type: none"> ・CSを基盤と基盤とした小・中一貫教育の次の10年に向けて、見直しの素地ができたこと。 	
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の指導要領改訂に向けて、学園で連携しながらカリキュラムを作っていく。 	
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・学園として早目に組織を立ち上げ、先を見据えながら準備を進めていく。 	